

# 親の仕事観と 子供のキャリア観に関する調査

## 株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木

調査担当 / 小杉・岸川

電話 03-5269-8780

[kouhousitu@aidem.co.jp](mailto:kouhousitu@aidem.co.jp)

# 目次

	<b>調査概要</b>		.....	p . 3
1	<b>大人調査</b>	仕事の充実度	.....	p . 4
2	<b>大人調査</b>	仕事が充実している理由	.....	p . 5
3	<b>大人調査</b>	仕事の捉え方	.....	p . 6
4	<b>大人調査</b>	子供との会話時間	.....	p . 7
5	<b>子供調査</b>	父親との会話量	.....	p . 8
6	<b>子供調査</b>	母親との会話量	.....	p . 9
7	<b>大人調査</b>	家族との会話の内容	.....	p . 10
8	<b>子供調査</b>	父親の仕事を知っているか	.....	p . 11
9	<b>子供調査</b>	母親の仕事を知っているか	.....	p . 12
10	<b>子供調査</b>	父親の働く姿を見たことがあるか	.....	p . 13
11	<b>子供調査</b>	母親の働く姿を見たことがあるか	.....	p . 13
12	<b>大人調査</b>	親の仕事への興味・関心	.....	p . 14
13	<b>子供調査</b>	働く父親への憧れ	.....	p . 15
14	<b>子供調査</b>	働く母親への憧れ	.....	p . 16
15	<b>子供調査</b>	将来なりたい職業はあるか	.....	p . 17
16	<b>子供調査</b>	将来その職業になりたい理由	.....	p . 18
17	<b>子供調査</b>	将来なりたい職業に就くための努力	.....	p . 19
18	<b>子供調査</b>	将来働くことは楽しみか	.....	p . 20
19	<b>大人調査</b>	親の働く姿を見せることの是非	.....	p . 21
20	<b>大人調査</b>	子供に身に付けてほしい能力	.....	p . 22
21	<b>大人調査</b>	キャリア教育の必要性	.....	p . 23

# 調査概要

<b>調査目的</b>	親の仕事観と子供のキャリア観について調査する
<b>調査対象</b>	小学校5～6年生の子供を持つ就労している男女で、子供と一緒にアンケート回答が可能な者
<b>調査方法</b>	インターネット調査
<b>調査期間</b>	2023年4月28日～30日
<b>有効回答</b>	1000名
<b>回答者内訳と留意事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本調査における「子供調査」は、回答者（大人）による代理回答である。回答者（大人）には、調査時に同席している子供に質問をし、その回答を聞いて記入するよう指示している。</li> <li>調査票では、基本的に「父親」「母親」という表記をしていない。各設問においては「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。なお、配偶者については既婚の回答者のみに聞いている。</li> </ul>

父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答]  
 母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答]

大人性別	n	%
男性	621	62.1
女性	379	37.9
計	1000	100.0

大人婚姻状況	n	%
既婚	944	94.4
未婚・離別・死別	56	5.6
計	1000	100.0

子供性別	n	%
男子	538	53.8
女子	462	46.2
計	1000	100.0

大人最終学歴	男性		女性		父親		母親	
	n	%	n	%	n	%	n	%
中学校卒業	8	1.3	3	0.8	15	1.6	11	1.1
高校卒業	95	15.3	83	21.9	179	18.6	212	21.6
専門学校・各種学校卒業	67	10.8	67	17.7	120	12.5	164	16.7
高専・短大卒業	19	3.1	70	18.5	41	4.3	201	20.4
大学卒業	369	59.4	140	36.9	511	53.2	365	37.1
大学院卒業	63	10.1	16	4.2	95	9.9	30	3.1
計	621	100.0	379	100.0	961	100.0	983	100.0

父母の就労状況	n	%
共働き家庭 A (父母とも正社員または自営業)	293	29.3
共働き家庭 B (父母の1人以上が正社員・自営業以外の働き方)	477	47.7
専業主婦/夫 家庭 (父母のいずれかが無職)	174	17.0
シングル家庭 (父(または母)は就労)	56	5.6
計	1000	100.0

大人職業	男性		女性		父親		母親	
	n	%	n	%	n	%	n	%
正社員	571	91.9	126	33.2	872	90.7	287	29.2
自営業・フリーランス等の個人事業主	34	5.5	17	4.5	62	6.5	40	4.1
契約・嘱託社員	8	1.3	14	3.7	11	1.1	32	3.3
派遣社員	2	0.3	10	2.6	2	1.0	18	1.8
パート・アルバイト	6	1.0	212	55.9	10	0.4	436	44.4
無職	0	0.0	0	0.0	4	1.1	170	17.3
計	621	100.0	379	100.0	961	100.0	983	100.0

労働時間	男性		女性	
	正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主	非正規雇用	正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主	非正規雇用
週10時間未満	20.3	31.3	26.6	38.1
週10時間以上20時間未満	12.2	12.5	7.7	27.5
週20時間以上30時間未満	5.3	6.3	6.3	19.9
週30時間以上40時間未満	10.2	25.0	17.5	10.6
週40時間以上50時間未満	31.1	18.8	32.2	2.5
週50時間以上60時間未満	13.9	6.3	6.3	0.8
週60時間以上	6.9	0.0	3.5	0.4
計	100	100	100	100

- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

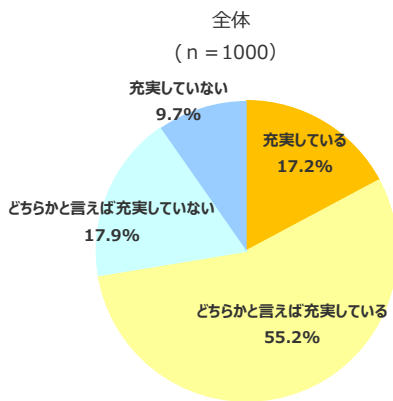
# 仕事の充実度

小学校5-6年生の子供がいる男女に、仕事の充実度を聞いたところ、「充実している」17.2%、「どちらかと言えば充実している」55.2%となり、仕事が充実している男女が72.4%に上った（図1.1）。

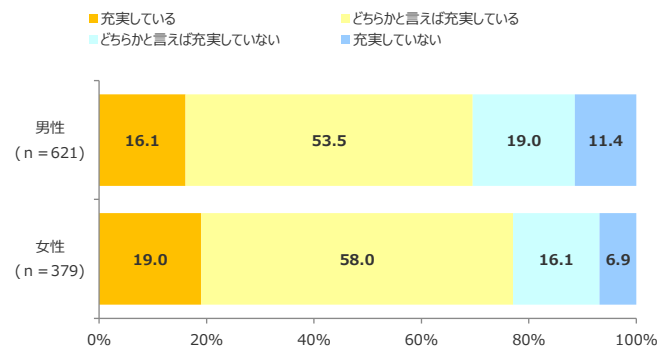
大人の性別で見ると、仕事の充実度（「充実している」+「どちらかと言えば充実している」の計/以下同）は、男性で69.6%、女性で77.0%と、女性の方が7.4ポイント高くなっている（図1.2）。

就労状況別に仕事の充実度をみると、男性は「正社員/自営業・フリーランス等」が69.4%、「非正規雇用」が75.0%、女性は「正社員/自営業・フリーランス等」が76.9%、「非正規雇用」が77.1%となり、男女とも「非正規雇用」の方が充実度が高くなっていた。また、同一の就労状況を比較すると、女性の方が充実度が高くなっている（図1.3、図1.4）。

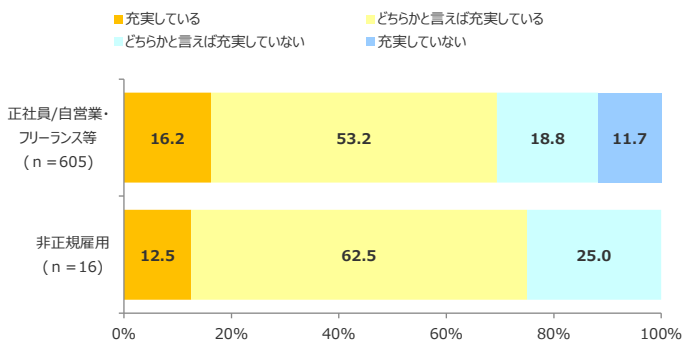
【図1.1】仕事の充実度



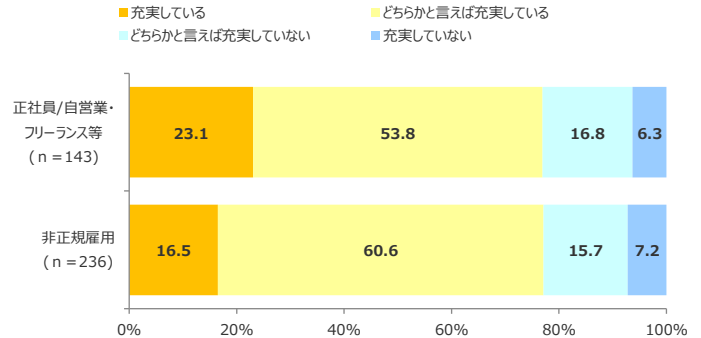
【図1.2】仕事の充実度：大人性別



【図1.3】仕事の充実度：男性の就労状況別



【図1.4】仕事の充実度：女性の就労状況別



# 仕事が充実している理由

さらに、「大人調査：仕事の充実度」における回答内容について、そのように感じる理由を3つまで聞いた。

「充実している」と感じている理由としては、「職場の人間関係・雰囲気が良いから」が最も多く34.8%、次いで「仕事に達成感があるから」33.8%、「自分の裁量で仕事を進められるから」30.0%、「人に感謝される仕事だから」21.7%となっている。

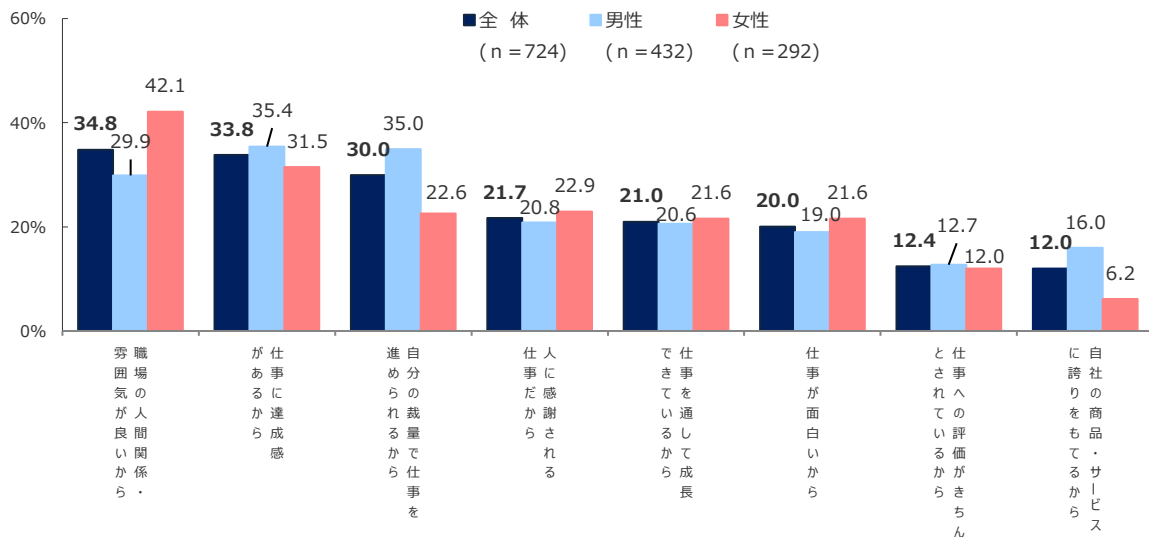
回答者の性別でみると、男性は「仕事に達成感があるから」35.4%、「自分の裁量で仕事を進められるから」35.0%が1位、2位となり、女性は「職場の人間関係・雰囲気が良いから」が42.1%と突出して多くなっていた（図2.1）。

一方、「充実していない」と感じている理由としては、「仕事が面白くないから」が最も多く38.0%、次いで「仕事への評価が適正ではないから」30.1%、「仕事に達成感がないから」27.9%、「職場の人間関係・雰囲気が悪いから」26.8%となっている。

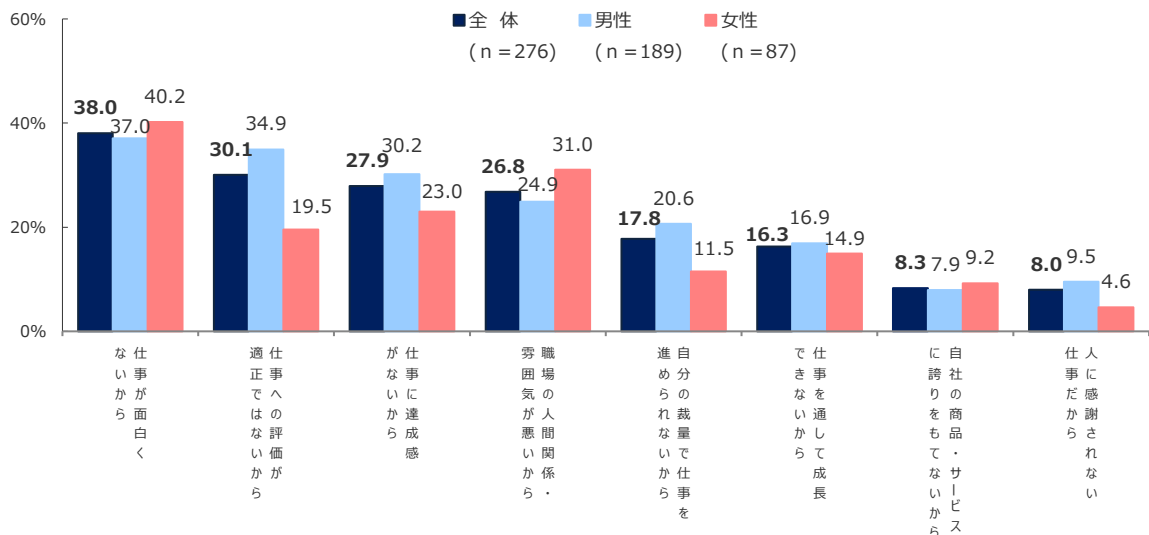
回答者の性別でみると、男性も女性も「仕事が面白くないから」が最も多く、それぞれ37.0%、40.2%となっていた。男性は次いで「仕事への評価が適正ではないから」34.9%、「仕事に達成感がないから」30.2%となっている。女性は次いで「職場の人間関係・雰囲気が悪いから」が31.0%となり、男性より6.1ポイント割合が高い（図2.2）。

仕事の充実感は、「仕事の面白さ」を除いて、男性では「達成感、裁量、評価」、女性では「職場の人間関係・雰囲気」によって大きく左右されるようだ。

【図2.1】仕事が充実している理由



【図2.2】仕事が充実していない理由



## 仕事の捉え方

小学校5-6年生の子供がいる男女に、仕事の捉え方について、3つの選択肢の中から自身の考えに最も近いものを聞いた。「収入や地位、肩書などを得るために働くもの（以降「功利的仕事観」と表記）」が最も多く39.7%、次いで「自己実現やスキル向上など、自身の内面にある動機を大事にするために働くもの（以降「内因の仕事観」と表記）」が37.2%、「自分のために働くのではなく、人々や社会の役に立つために働くもの（以降「規範の仕事観」と表記）」が23.1%という結果になった（図3.1）。

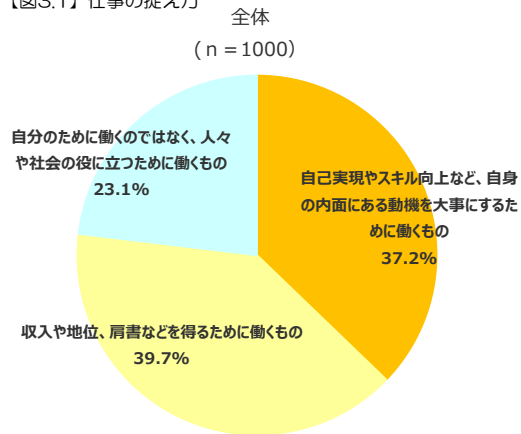
大人の性別でみると、男性は「功利的仕事観」、女性は「内因の仕事観」が最も多くそれぞれ42.0%、39.6%である（図3.2）。

雇用形態別にみると、雇用形態にかかわらず、男性は「功利的仕事観」が、女性は「内因の仕事観」が最も多くなっていた（図3.3、図3.4）。

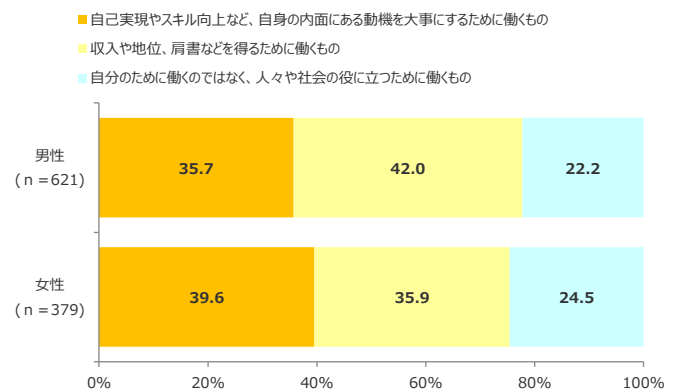
年代別にみると、「内因の仕事観」に差はないが、「功利的仕事観」の割合は50代以上で高くなっていた（図3.5）。

仕事の充実度との関係を見ると、仕事が「充実している」人は「内因の仕事観」が最も多く43.0%、仕事が「充実していない」人は「功利的仕事観」が最も多く50.7%であった。「内因の仕事観」を充実度によって比べると、「充実している」人は「充実していない」人より20.9ポイント高くなっていた。“自身の内面にある動機を大事にして働くこと”が仕事の充実度を高めているのかもしれない（図3.6）。

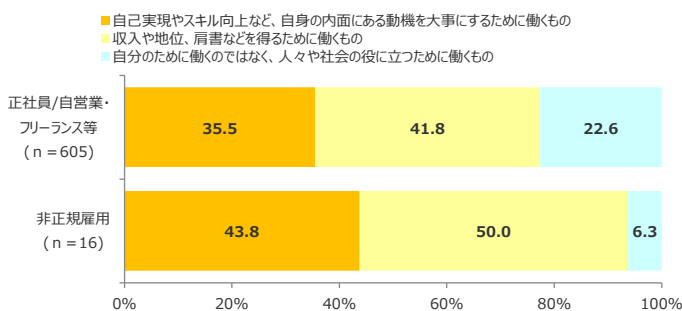
【図3.1】仕事の捉え方



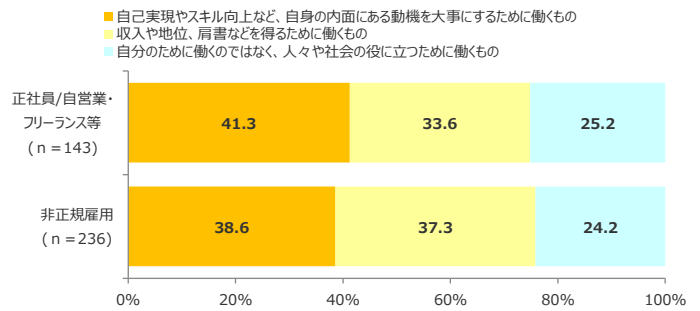
【図3.2】仕事の捉え方：大人性別



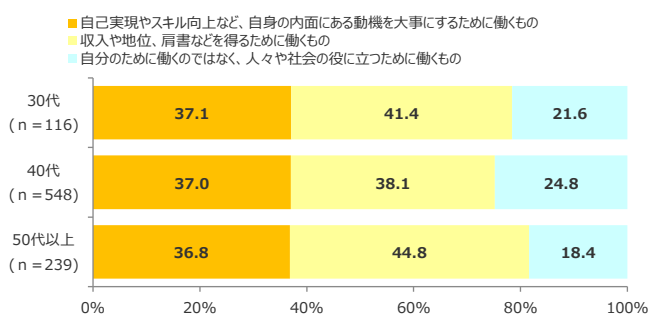
【図3.3】仕事の捉え方：男性の雇用形態別



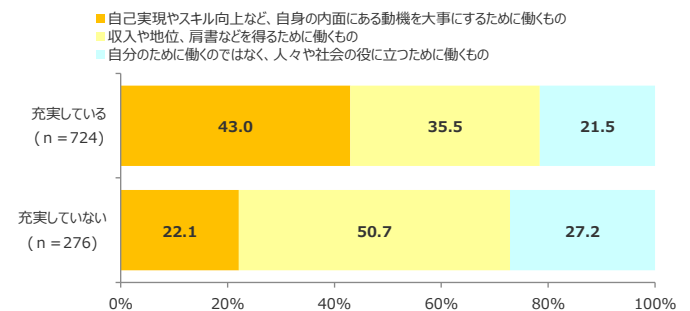
【図3.4】仕事の捉え方：女性の雇用形態別



【図3.5】仕事の捉え方：年代別



【図3.6】仕事の捉え方：仕事の充実度別



# 子供との会話時間

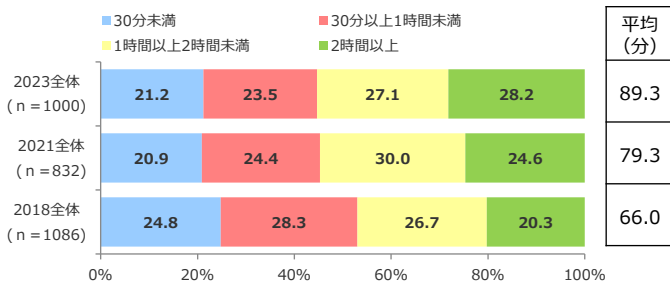
小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供との会話時間を「労働日（働いている日）の平均」と「休日の平均」についてそれぞれ聞いた。

## 労働日の子供との会話時間

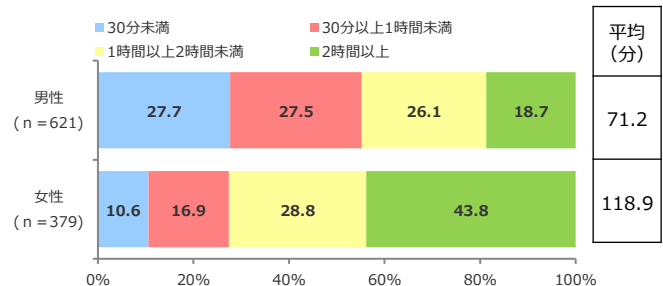
男女の労働日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「30分未満」21.2%、「30分以上1時間未満」23.5%、「1時間以上2時間未満」27.1%、「2時間以上」28.2%で、平均は89.3分だった。過去の調査と比較すると、調査ごとに会話時間の平均が増えており、2021年調査より労働日における子供との会話時間の平均は10分増えている（図4.1）。

性別で見ると、男性は「30分未満」27.7%、「30分以上1時間未満」27.5%と、1時間未満が55.2%であった。一方、女性は「2時間以上」が43.8%に上り、女性の方が子供と多くの時間話している結果となった（図4.2）。

【図4.1】労働日における子供との会話時間：過去調査比較



【図4.2】労働日における子供との会話時間：大人性別

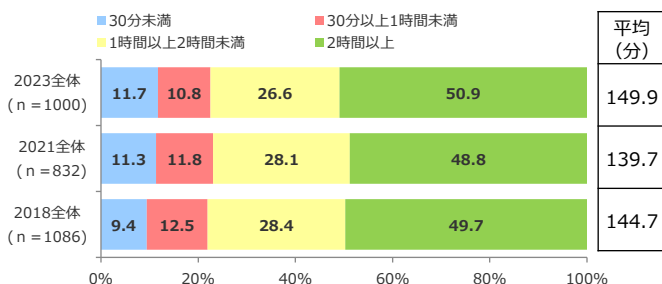


## 休日の子供との会話時間

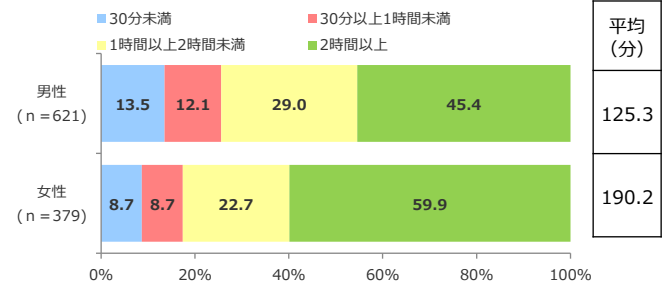
男女の休日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「2時間以上」50.9%で最も多くなっていた。平均は149.9分だった。2021年調査と比較すると、休日における子供との会話時間の平均は10.2分増えている（図4.3）。

性別で見ると、男女とも、「2時間以上」が最多を占めているが、女性は男性よりも14.5ポイント高くなっている。平均は、男性が125.3分なのに対し、女性は190.2分と64.9分長くなっており、子供との会話機会が圧倒的に多いことがうかがえる（図4.4）。

【図4.3】休日における子供との会話時間：過去調査比較



【図4.4】休日における子供との会話時間：大人性別

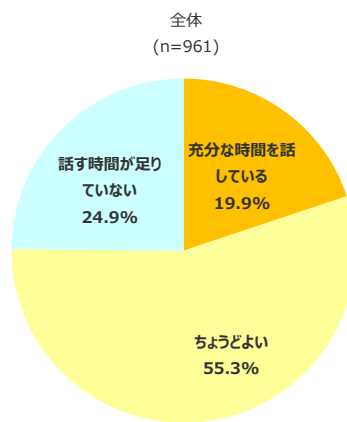


## 父親との会話量

小学校5-6年生の子供に、父親との会話量に聞いたところ、「十分な時間を話している」19.9%、「ちょうどよい」55.3%、「話す時間が足りていない」24.9%となり、「ちょうどよい」が過半数となった（図5.1）。

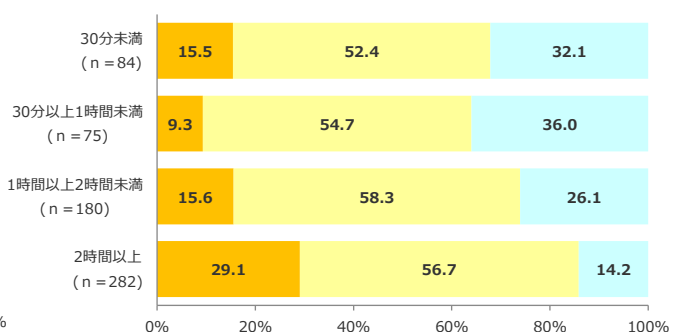
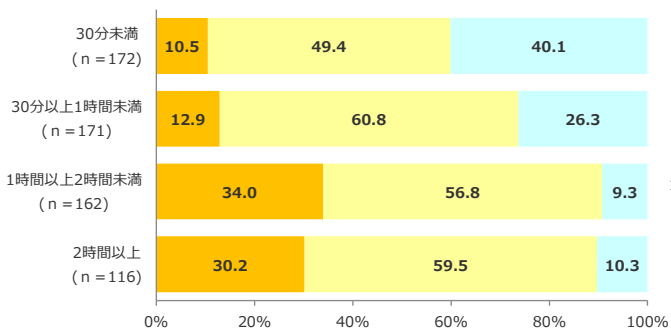
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日では会話時間が短い男性の子供ほど、「話す時間が足りていない」と感じる割合が概ね高くなっている。会話時間が「30分未満」の男性の子供では、「話す時間が足りていない」が40.1%だった。また、休日では会話時間が「30分以上1時間未満」の男性の子供は、「話す時間が足りていない」が最も多く36.0%だった（図5.2、図5.3）。

【図5.1】父親との会話量

【図5.2】父親との会話量  
：男性の労働日における子供との会話時間別【図5.3】父親との会話量  
：男性の休日における子供との会話時間別

■ 十分な時間を話している ■ ちょうどよい ■ 話す時間が足りていない

■ 十分な時間を話している ■ ちょうどよい ■ 話す時間が足りていない



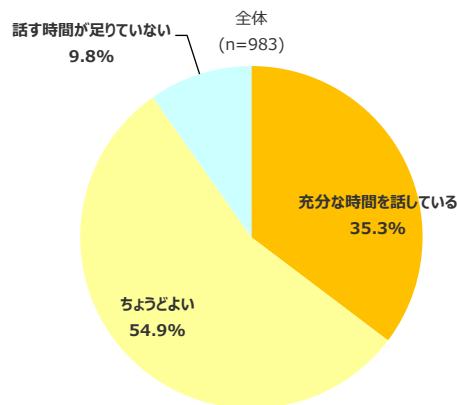
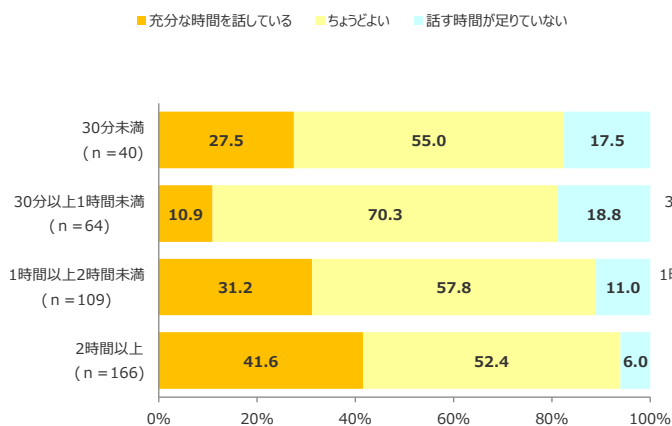
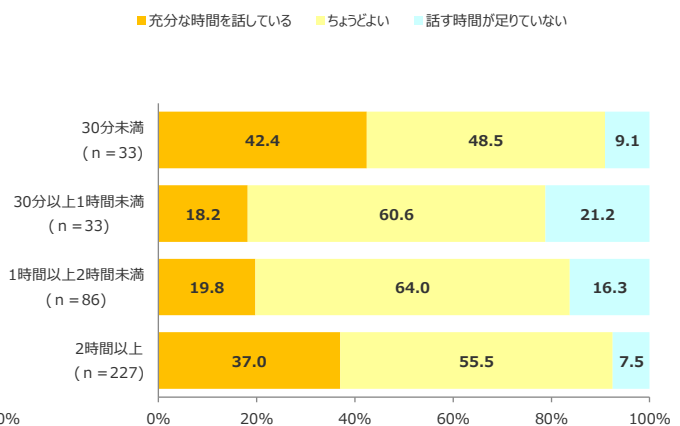


## 母親との会話量

小学校5-6年生の子供に、母親との会話量について聞くと、「十分な時間を話している」が35.3%、「ちょうどよい」54.9%、「話す時間が足りていない」9.8%となった。父親に比べて、「十分な時間を話している」の回答割合は15.4ポイント高い（図6.1）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日でも休日でも「30分未満」の回答を除き、会話時間が長い女性の子供のほど、子供は「十分な時間を話している」と感じている結果となった（図6.2、図6.3）。

【図6.1】母親との会話量

【図6.2】母親との会話量  
：女性の労働日における子供との会話時間別【図6.3】母親との会話量  
：女性の休日における子供との会話時間別

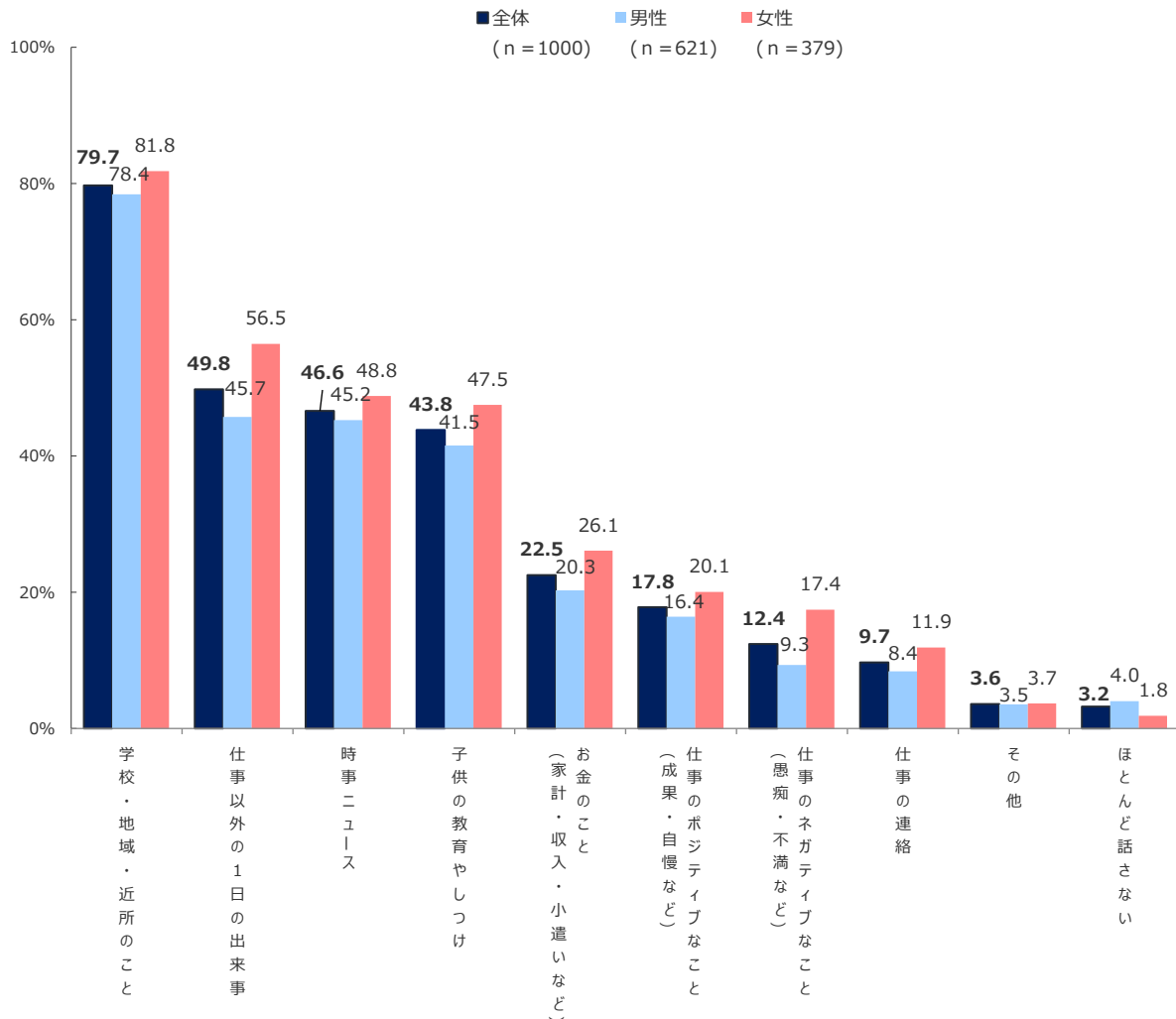
# 家族との会話の内容

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供がいる場で家族で話す内容はどのようなものが多いかを聞いた。

最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で79.7%、次いで「仕事以外の1日の出来事」49.8%、「時事ニュース」46.6%「子供の教育やしつけ」43.8%となっている。

これを大人の性別で見ると、男女とも項目の順位は変わらないが、女性は「仕事以外の1日の出来事」「仕事のネガティブなこと（愚痴・不満など）」が男性に比べて、それぞれ10.8ポイント、8.1ポイント割合が高くなっているのが特徴的である（図7）。

【図7】 家族との会話の内容



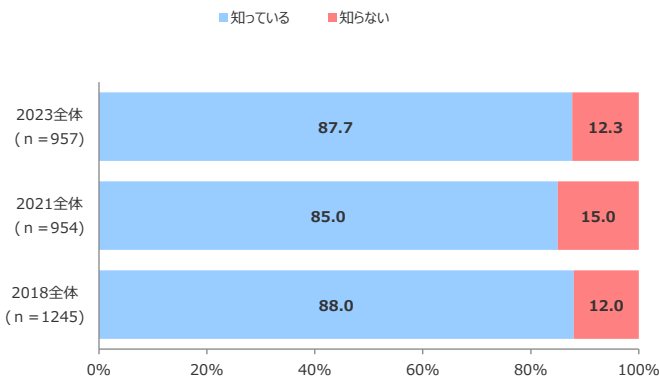
## 父親の仕事を知っているか

小学校5-6年生の子供に父親（有職者）がどのような仕事をしているか知っているかを聞いたところ、87.7%が「知っている」と回答した。2021年調査の85.0%から2.7ポイント上昇した（図8.1）。

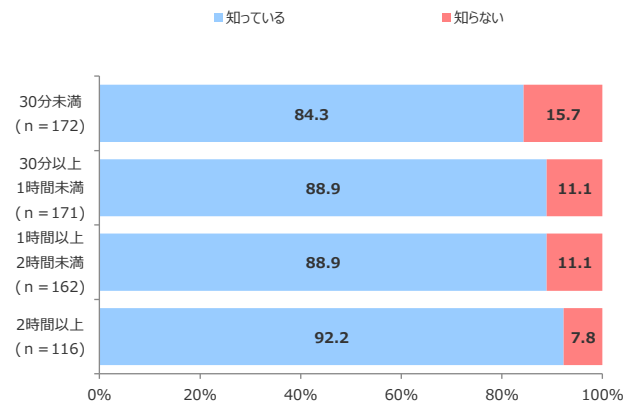
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日と休日の会話時間が「2時間以上」の男性の子供だと、「知っている」と回答した割合がそれぞれ92.2%、90.8%と他よりも若干高くなっていた（図8.2、図8.3）。

雇用形態別にみると、「知っている」は「正社員/自営業・フリーランス等」の子供が87.7%、「非正規雇用」の子供が87.0%でほとんど差はなかった（図8.4）。

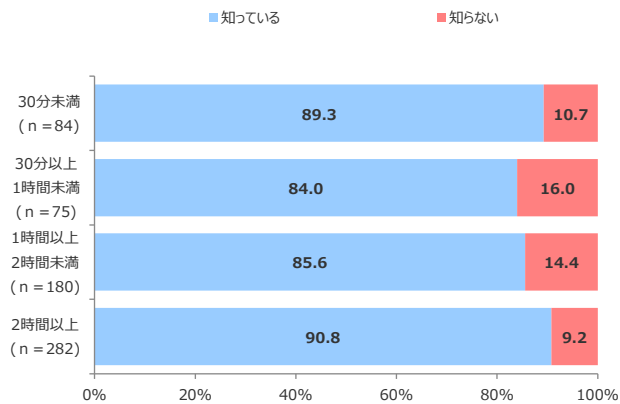
【図8.1】父親の仕事を知っているか：過去調査比較



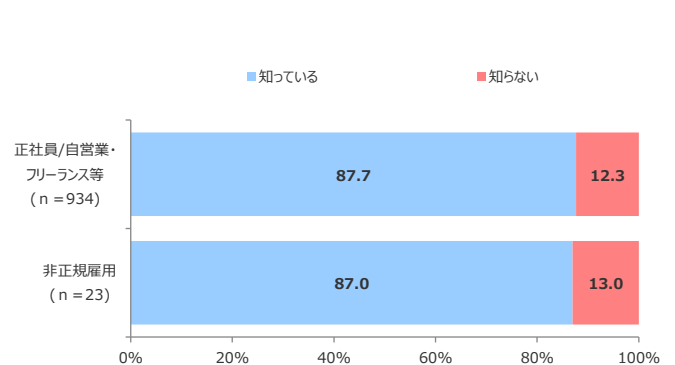
【図8.2】父親の仕事を知っているか  
：男性の労働日における子供との会話時間別



【図8.3】父親の仕事を知っているか  
：男性の休日における子供との会話時間別



【図8.4】父親の仕事を知っているか：父親の雇用形態別



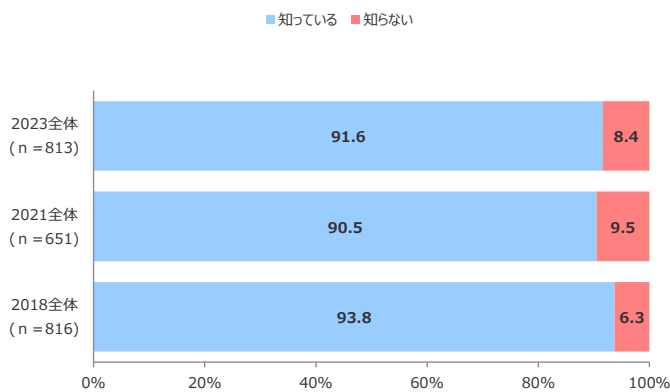
# 母親の仕事を知っているか

小学校5-6年生の子供に母親（有職者）がどのような仕事をしているか知っているかを聞いたところ、91.6%が「知っている」と回答した。父親の仕事よりも母親の仕事の方が「知っている」と回答した子供の割合は3.9ポイント高かった。また「知っている」の割合は、2021年調査の90.5%から1.1ポイント上昇した（図9.1）。

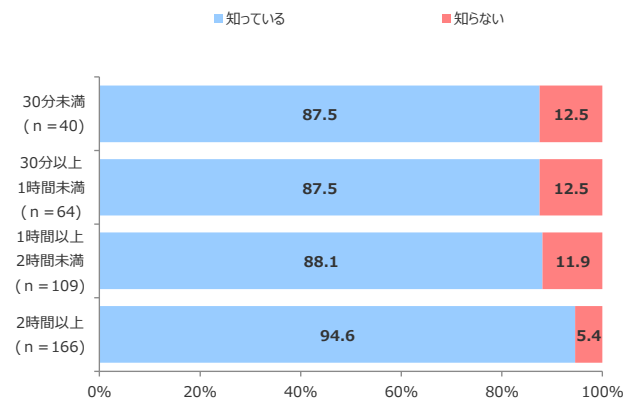
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日と休日の会話時間が「2時間以上」の女性の子供だと、「知っている」と回答した割合がそれぞれ94.6%、93.8%と他よりも高くなっていた。また、会話時間が長くなるにつれ、「知っている」の割合が高くなる傾向となった（図9.2、図9.3）。

雇用形態別にみると、「知っている」は「正社員/自営業・フリーランス等」の子供が91.4%、「非正規雇用」の子供が91.8%でほとんど差はなかった（図9.4）。

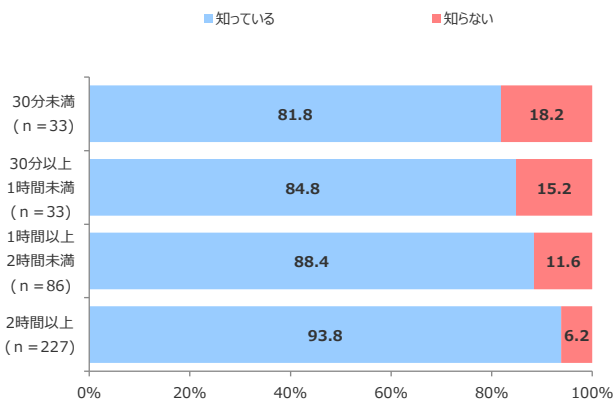
【図9.1】 母親の仕事を知っているか：過去調査比較



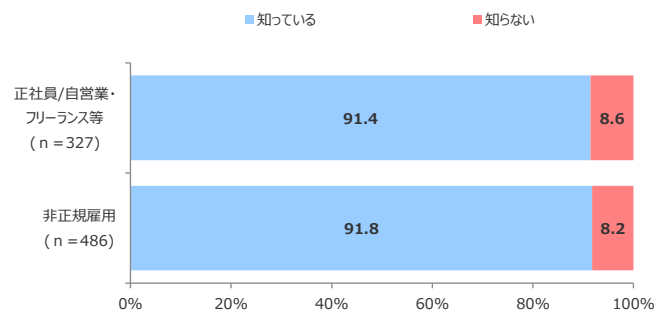
【図9.2】 母親の仕事を知っているか  
：女性の労働日における子供との会話時間別



【図9.3】 母親の仕事を知っているか  
：女性の休日における子供との会話時間別



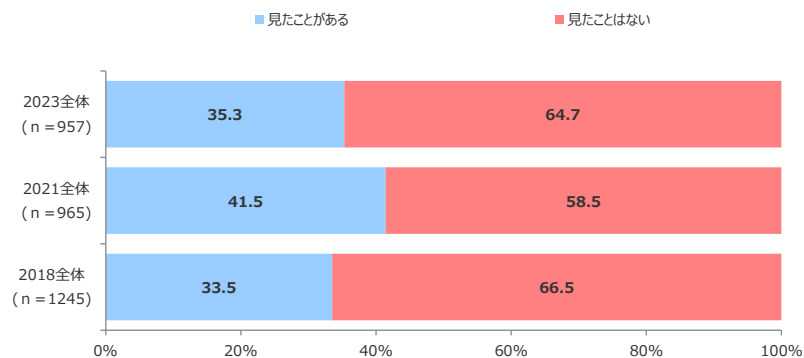
【図9.4】 母親の仕事を知っているか：母親の雇用形態別



## 父親の働く姿を見たことがあるか

小学校5-6年生の子供に父親（有職者）の働く姿を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」は35.3%、「見たことはない」は64.7%だった。また「見たことがある」は、2021年調査の41.5%から6.2ポイント低下した（図10）。父親の仕事を「知っている」子供は9割近くに上ったが、その働く姿を実際に「見たことがある」子供は多くはないようだ。

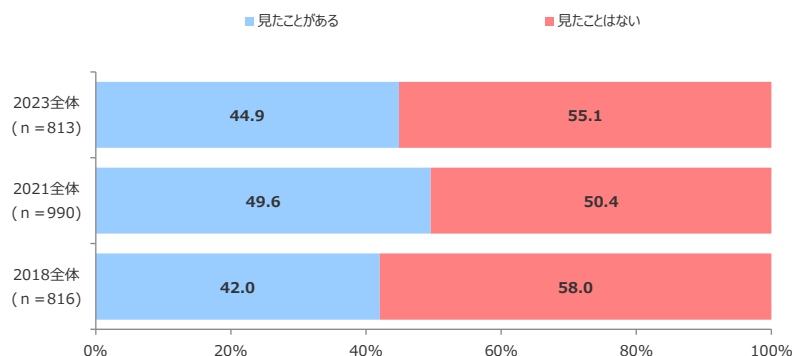
【図10】父親の働く姿を見たことがあるか：過去調査比較



## 母親の働く姿を見たことがあるか

小学校5-6年生の子供に母親（有職者）の働く姿を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」は44.9%、「見たことはない」は55.1%だった。また「見たことがある」は、2021年調査の49.6%から4.7ポイント低下した（図11）。父親の仕事を「見たことがある（35.3%）」子供より、母親の働く姿を「見たことがある」子供の方が9.6ポイント割合が高くなっていた。

【図11】母親の働く姿を見たことがあるか：過去調査比較



# 親の仕事への興味・関心

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供が親の仕事について話をしたり質問をするなど興味や関心を持っているように思うかを聞いた。全体では、「持っていると思う」13.1%、「どちらかと言えば持っていると思う」39.6%となり、合わせて52.7%の回答者が、子供は親の仕事への興味や関心を「持っていると思う（どちらかと言えば含む）/以下同」と回答している（図12.1）。

子供の性別でみると、「持っていると思う」は男子で50.9%、女子で54.8%と女子の方が3.9ポイント割合が高くなっている。さらに子供の性別と大人の性別を組み合わせた関係でみると、「持っていると思う」は母親と女子の組み合わせが62.8%と最も多くなった（図12.2）。

「大人調査：家族との会話の内容」について、「仕事のポジティブなこと（成果・自慢など）」「仕事のネガティブなこと（愚痴・不満など）」「仕事の連絡」のいずれかを選択している回答者を「仕事の話をする」、それ以外の者を「仕事の話をしていない」に分けて関係をみると（以下同）、「仕事の話をする」家庭では「仕事の話をしていない」家庭に比べて、「持っていると思う」が16.6ポイント高くなっている（図12.3）。

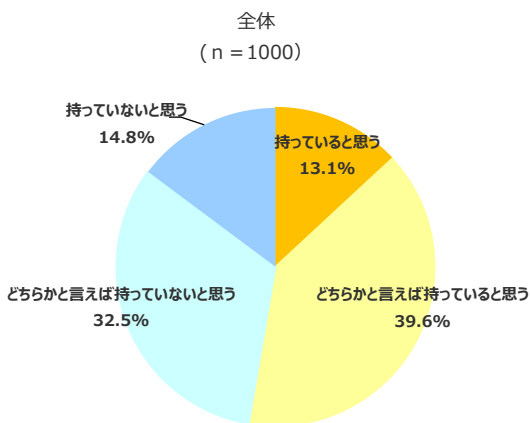
「子供調査：親の働く姿を見たことがあるか」との関係をみると、「見たことがある」子供では「見たことはない」子供に比べて、「持っていると思う」が22.1ポイント高くなっていた（図12.4）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係をみると、「充実している」回答者の子供は「充実していない」回答者の子供に比べて、「持っていると思う」が37.3ポイントと大幅に高くなっている（図12.5）。

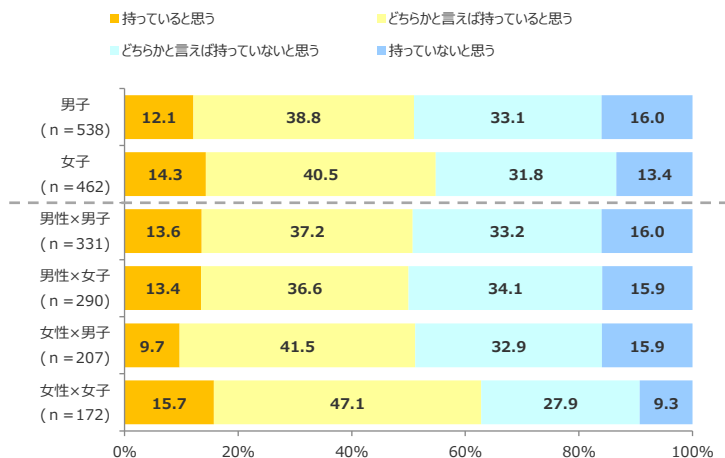
「大人調査：仕事の捉え方」との関係をみると、「内因的仕事観」を持つ回答者の子供は、他の仕事観を持つ回答者の子供に比べて、「持っていると思う」が20ポイント程度高くなっていた（図12.6）。

親との会話の中で仕事の話や、親の働く姿を見ること、また親の仕事への充実感などを子供が感じ取ること、親の仕事への興味や関心が芽生えるのかもしれない。

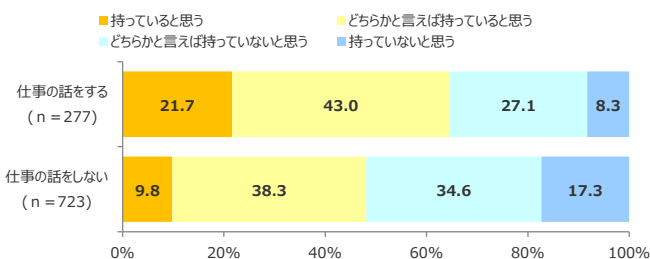
【図12.1】親の仕事への興味・関心



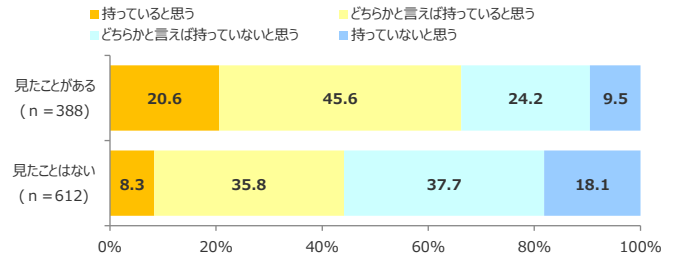
【図12.2】親の仕事への興味・関心：大人性別×子供性別



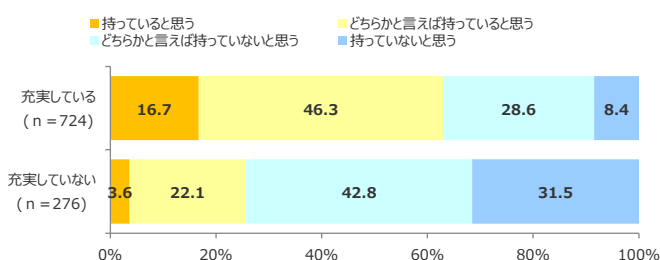
【図12.3】親の仕事への興味・関心：家族との会話の内容別



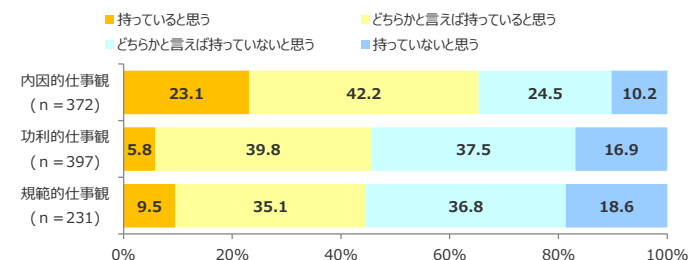
【図12.4】親の仕事への興味・関心：あなたの働く姿を見たことがあるか別



【図12.5】親の仕事への興味・関心：仕事の充実度別



【図12.6】親の仕事への興味・関心：仕事の捉え方別



## 働く父親への憧れ

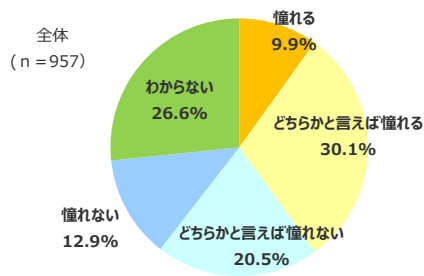
小学校5-6年生の子供に、働いている父親を見て「カッコいい/そなりたい」などの憧れを感じているかを聞いた。全体では、「憧れる」9.9%、「どちらかと言えば憧れる」30.1%となり、合わせて40.0%の子供が、働いている父親に憧れると回答している。一方、「わからない」と回答した子供も26.6%いた（図13.1）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」男性の子供は、「憧れる」「どちらかと言えば憧れる」が45.0%に上り、「充実していない」男性の子供の26.9%より割合が18.1ポイント高くなっていた（図13.2）。

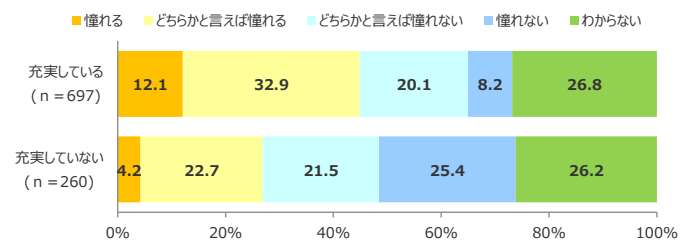
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、「見たことがある」子供は「憧れる」「どちらかと言えば憧れる」が54.4%となり、「見たことはない」子供の32.1%より割合が22.3ポイント高くなっていた（図13.3）。

「大人調査：家族との会話の内容」との関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしなない」家庭と比べて、父親に憧れる割合が高くなっている（図13.4）。

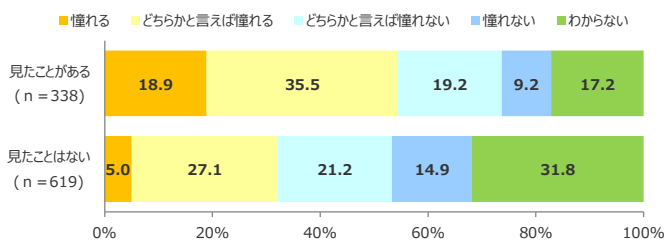
【図13.1】働く父親への憧れ



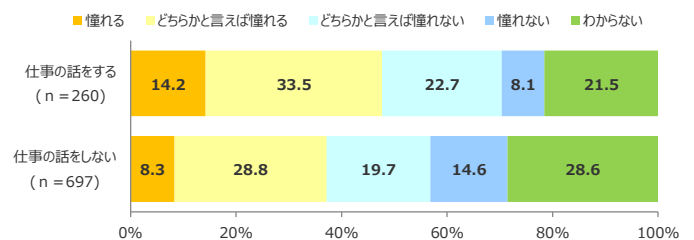
【図13.2】働く父親への憧れ：仕事の充実度別



【図13.3】働く父親への憧れ：父親の働く姿を見たことがあるか別



【図13.4】働く父親への憧れ：家族との会話の内容別



## 働く母親への憧れ

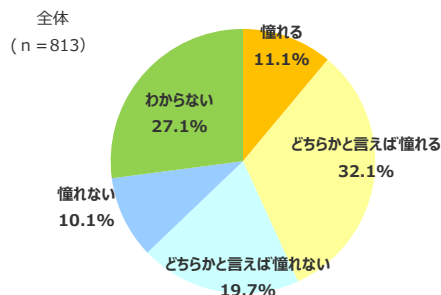
小学校5-6年生の子供に、働いている母親を見て「カッコいい/そうなりたい」などの憧れを感じているかを聞いた。全体では、「憧れる」11.1%、「どちらかと言えば憧れる」32.1%となり、合わせて43.2%の子供が、働いている母親に憧れると回答している。一方、「わからない」と回答した子供も27.1%いた（図14.1）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」女性の子供は、「憧れる」「どちらかと言えば憧れる」が47.5%に上り、「充実していない」女性の子供の31.3%より割合が16.2ポイント高くなっていた（図14.2）。

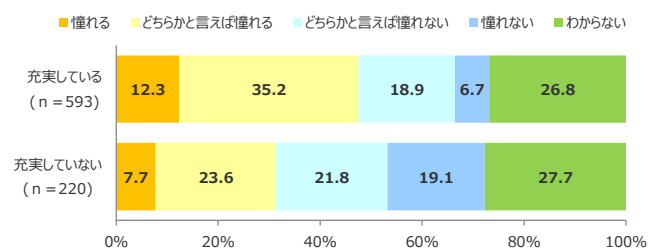
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、「見たことがある」子供は「憧れる」「どちらかと言えば憧れる」が53.1%となり、「見たことはない」子供の35.1%より割合が18.0ポイント高くなっていた（図14.3）。

「大人調査：家族との会話の内容」との関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしていない」家庭と比べて、母親に憧れる割合が高くなっている（図14.4）。

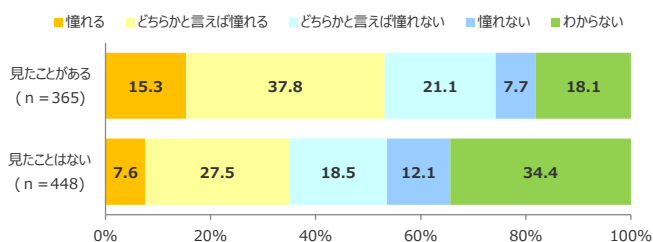
【図14.1】働く母親への憧れ



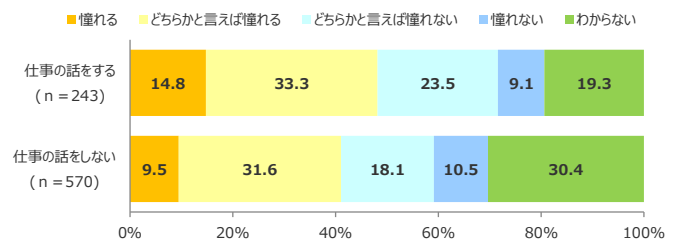
【図14.2】働く母親への憧れ：仕事の充実度別



【図14.3】働く母親への憧れ：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図14.4】働く母親への憧れ：家族との会話の内容別





# 将来なりたい職業はあるか

小学校5-6年生の子供に将来なりたい職業があるかを聞くと、「ある」と回答した子供は34.8%で3分の1強であった(図15.1)。

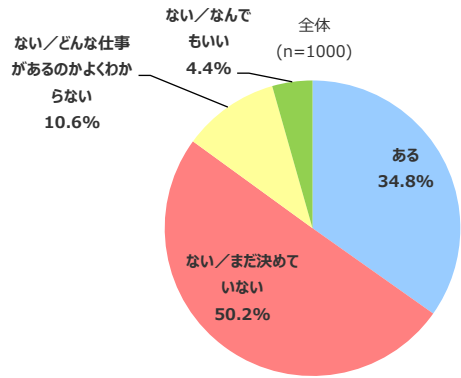
子供の性別で見ると、女子の方が「ある」と回答した割合が若干高かった(図15.2)。

「大人調査：家族との会話の内容」との関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしていない」家庭と比べて、なりたい職業が「ある」の回答割合が高くなっている(図15.3)。

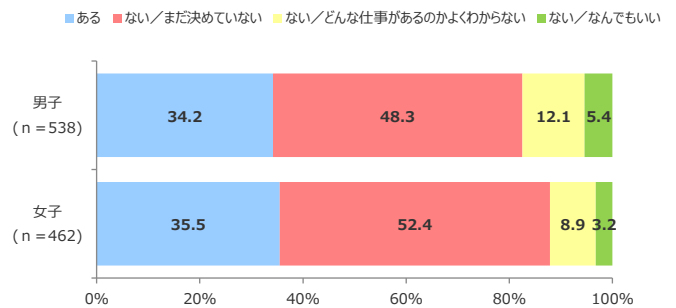
「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、親の仕事が「充実している」回答者の子供は、将来なりたい職業が「ある」割合が、「充実してない」回答者の子供よりも高くなっていた(図15.4)。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親または母親の働く姿を「見たことがある」家庭の子供は、将来なりたい職業が「ある」と回答した割合がそれぞれ4割程度となり、「見たことがない」家庭の子供を1割前後上回っていた(図15.5、図15.6)。

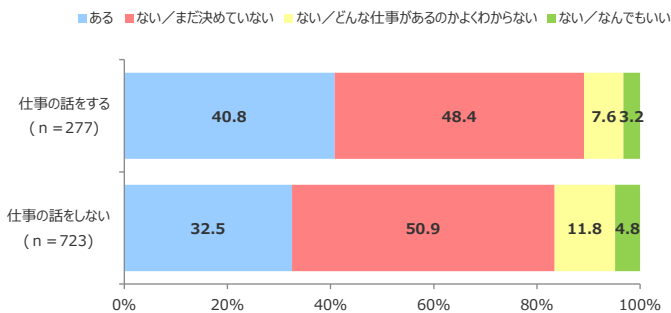
【図15.1】 将来なりたい職業はあるか



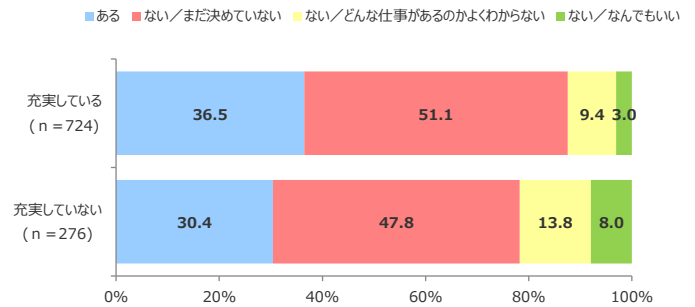
【図15.2】 将来なりたい職業はあるか：子供性別



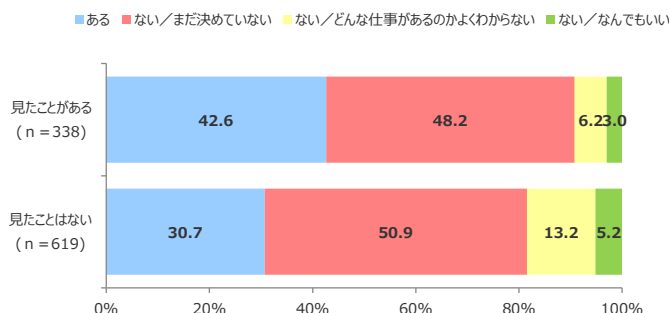
【図15.3】 将来なりたい職業はあるか：家族との会話の内容別



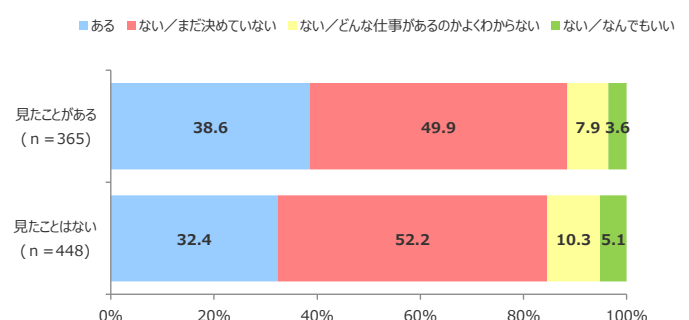
【図15.4】 将来なりたい職業はあるか：仕事の充実度別



【図15.5】 将来なりたい職業はあるか：父親の働く姿を見たことがあるか別



【図15.6】 将来なりたい職業はあるか：母親の働く姿を見たことがあるか別



# 将来その職業になりたい理由

「子供調査：将来なりたい職業はあるか」において、将来なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、なぜその職業に就きたいのか理由を聞くと、1位「好きなことだから」59.8%、2位「カッコいいから／かわいいから」27.6%、3位「社会や人の役に立ちたいから」22.4%となった。前回2021年調査、前々回2018年調査における上位3項目の順位は変わらず、これらが大きな軸になっていることがうかがえる。前回2021年調査と比較すると、「好きなことだから」は5.0ポイント増加した。

子供の性別でみると、男子は「カッコいいから／かわいいから」が32.1%と、女子よりも9.5ポイント高い。また、「得意なことだから」は23.4%で6.9ポイント、「お金を稼げそうだから」は18.5%で7.5ポイント女子よりも高くなっている。一方、女子は「好きなことだから」が65.2%と男子よりも10.3ポイント高くなっており、性別によってなりたい職業へのモチベーションも異なっているようだ（図16）。

【図16】 その職業に将来なりたいと思う理由



# 将来なりたい職業に就くための努力

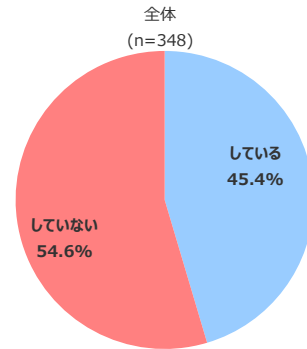
「子供調査：将来なりたい職業はあるか」において、将来なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力をしているかを聞くと、45.4%の子供が「している」と回答した（図17.1）。「している」は前々回2018年調査では43.1%、前回2021年調査では44.3%と調査ごとに微増となっはいるが、ほとんど差はなかった（図17.2）。

子供の性別で見ると、工夫や努力を「している」は男子で46.7%、女子で43.9%となり、男子の方が2.8ポイント割合が高くなっていた（図17.3）。

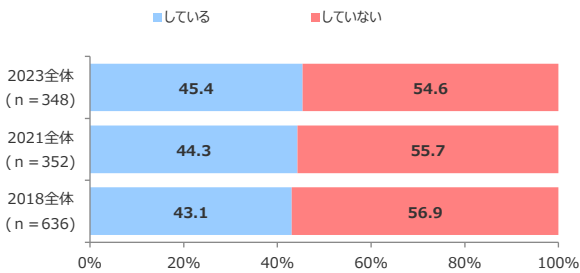
「大人調査：家族との会話の内容」との関係を見ると、「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしてない」家庭と比べて、工夫や努力を「している」割合が高くなっている（図17.4）。

「大人調査：親の仕事への興味・関心」との関係を見ると、親の仕事への興味を「持っていると思う」子供の方が、「持っていないと思う」子供と比べて、工夫や努力を「している」割合が高くなっていた（図17.5）。

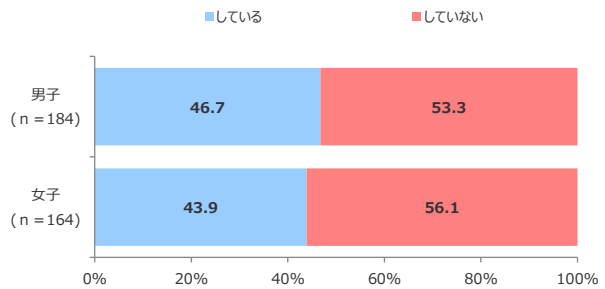
【図17.1】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか



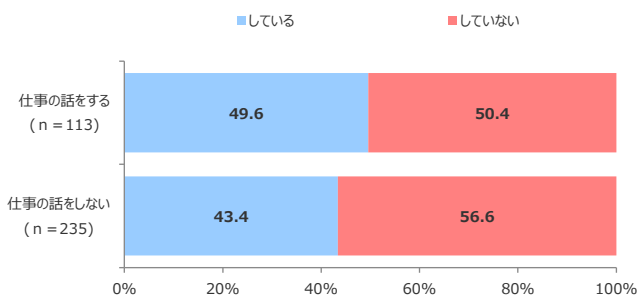
【図17.2】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか  
：過去調査比較



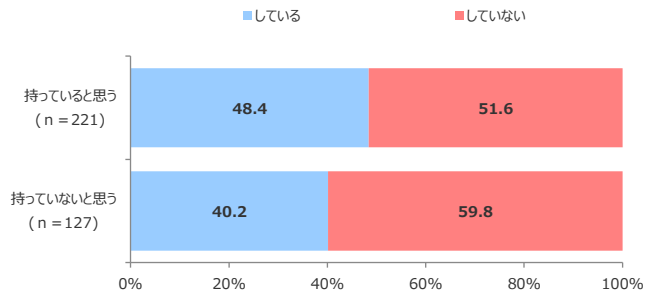
【図17.3】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか  
：子供性別



【図17.4】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか  
：家族との会話の内容別



【図17.5】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか  
：親の仕事への興味・関心の有無別



## 【自由回答】 ( ) 内は性別

- 野球に携わる仕事がしたいので、今野球を頑張っている。(男子)
- 獣医になりたいので、動物園によく行っています。(男子)
- 生物の生態や飼育法などの勉強をしているし、実際に生き物を捕獲して育てている。(男子)
- 将来なりたい職業を意識して、習い事をしている。(男子)
- 警察官になりたいから剣道を始めた。(女子)
- イラストレーターになりたいので、絵を描く練習をしたり、人が描いている動画を見たりしている。(女子)
- 習字の先生になりたくて、今も習字を習っている。(女子)
- どの国に行ってもいいように、英会話の塾に通っている。(女子)
- ペンギンの飼育員になりたいので、水族館に行って飼育体験をしたり、ペンギンの種類を勉強している。(男子)

# 将来働くことは楽しみか

小学校5-6年生の子供に、将来働くことを楽しみに感じているかを聞いた。結果は、「楽しみ」が17.1%、「どちらかと言えば楽しみ」が52.0%で、あわせて69.1%の子供が「楽しみ・計（以下同）」と回答した（図18.1）。

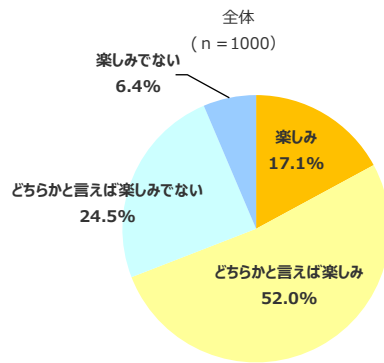
「子供調査：将来なりたい職業はあるか」との関係を見ると、なりたい職業が「ない」子供の「楽しみ・計」が57.9%なのに対して、なりたい職業が「ある」子供の「楽しみ・計」は90.3%となり、割合が32.4ポイントと大幅に高くなっていた。なりたい職業への目標があることで、楽しみに感じている子供が多いことがうかがえる（図18.2）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が79.2%、母親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が76.7%となり、それぞれ親の働く姿を「見たことがない」子供よりも高くなっていた（図18.3、図18.4）。

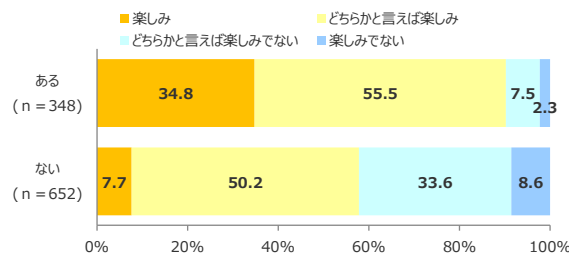
「子供調査：働く父親への憧れ」「子供調査：働く母親への憧れ」との関係を見た。働く父親、母親に対して「憧れる」と感じている子供は「楽しみ・計」が8割を超えていた。それぞれ親の働く姿を「憧れない」「わからない」と感じている子供よりも大幅に高くなっている（図18.5、図18.6）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係では、「充実している」回答者の子供は「楽しみ・計」が74.6%となり、「充実していない」回答者の子供よりも19.9ポイント高くなっていた（図18.7）。親の働く様子や充実感が子供にも伝わり、ポジティブな将来イメージを抱かせていることがうかがえる。

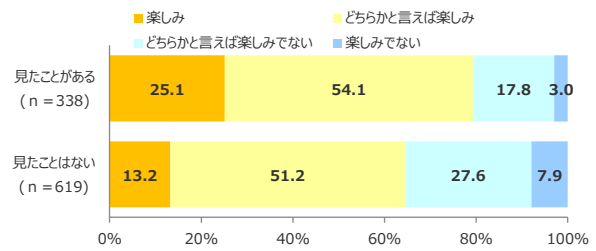
【図18.1】 将来働くことを楽しみに感じているか



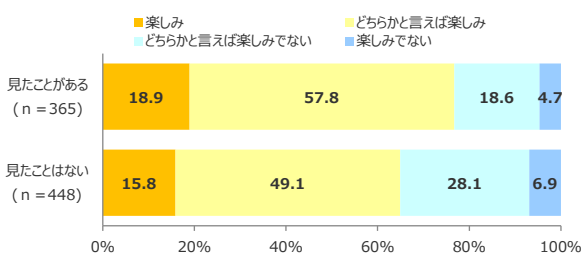
【図18.2】 将来働くことを楽しみに感じているか  
：将来なりたい職業の有無別



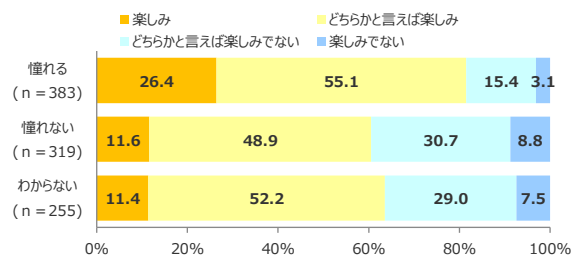
【図18.3】 将来働くことを楽しみに感じているか  
：父親の働く姿を見たことがあるか別



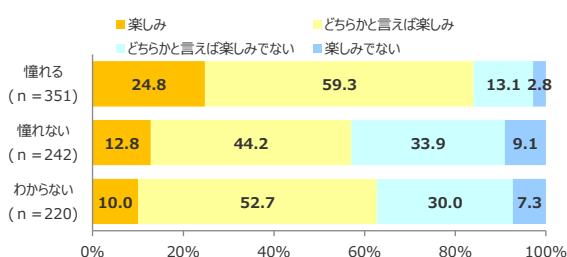
【図18.4】 将来働くことを楽しみに感じているか  
：母親の働く姿を見たことがあるか別



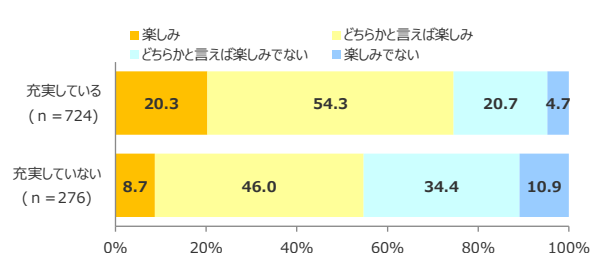
【図18.5】 将来働くことを楽しみに感じているか  
：働く父親への憧れ別



【図18.6】 将来働くことを楽しみに感じているか  
：働く母親への憧れ別



【図18.7】 将来働くことを楽しみに感じているか：仕事の充実度別



## 親の働く姿を見せることの是非

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供に親の働く姿を見せることは良いことだと思うかを聞いた。

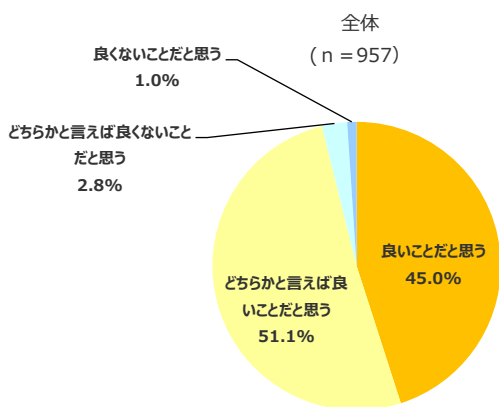
子供に父親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が45.0%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が51.1%で、合わせて96.1%が肯定的に捉えていた（図19.1）。

子供に母親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が47.4%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が49.4%で、肯定的な意見が計96.8%に上った（図19.2）。

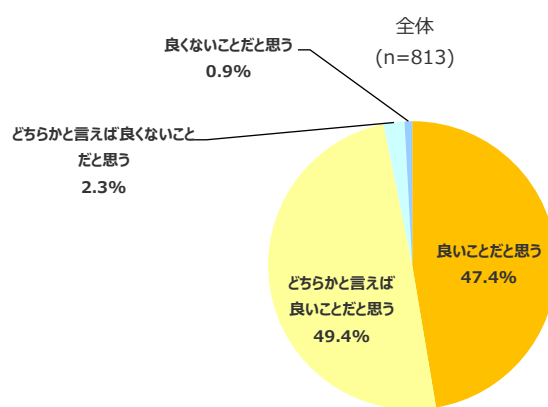
大人の性別でみると、父親の働く姿を見せることは「良いことだと思う」の回答割合は男性より女性の方が高く、母親の働く姿を見せることを「良いことだと思う」の回答割合は女性より男性の方が高くなっていった（図19.3、図19.4）。

年代別にみると、父親の働く姿にしても母親の働く姿にしても、30代は他の年代より「良いことだと思う」の回答割合が10ポイント以上高くなっていった（図19.5、図19.6）。

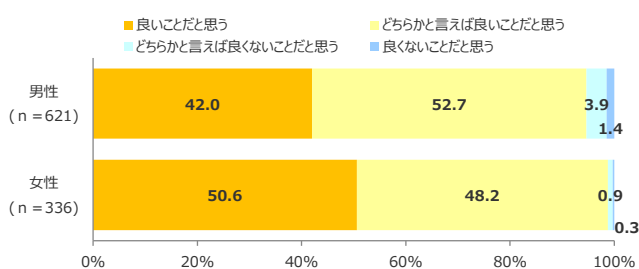
【図19.1】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



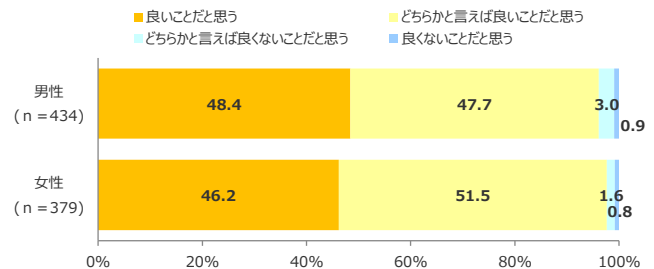
【図19.2】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



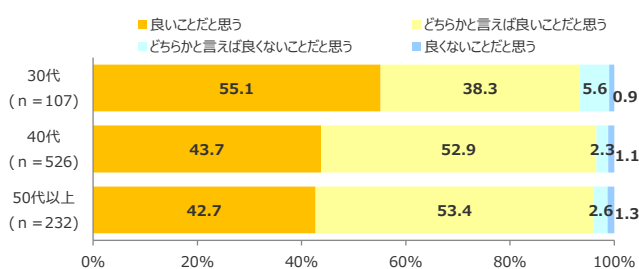
【図19.3】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



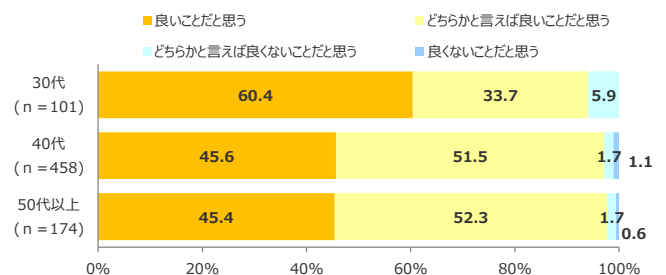
【図19.4】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



【図19.5】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：年代別



【図19.6】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：年代別



# 子供に身に付けてほしい能力

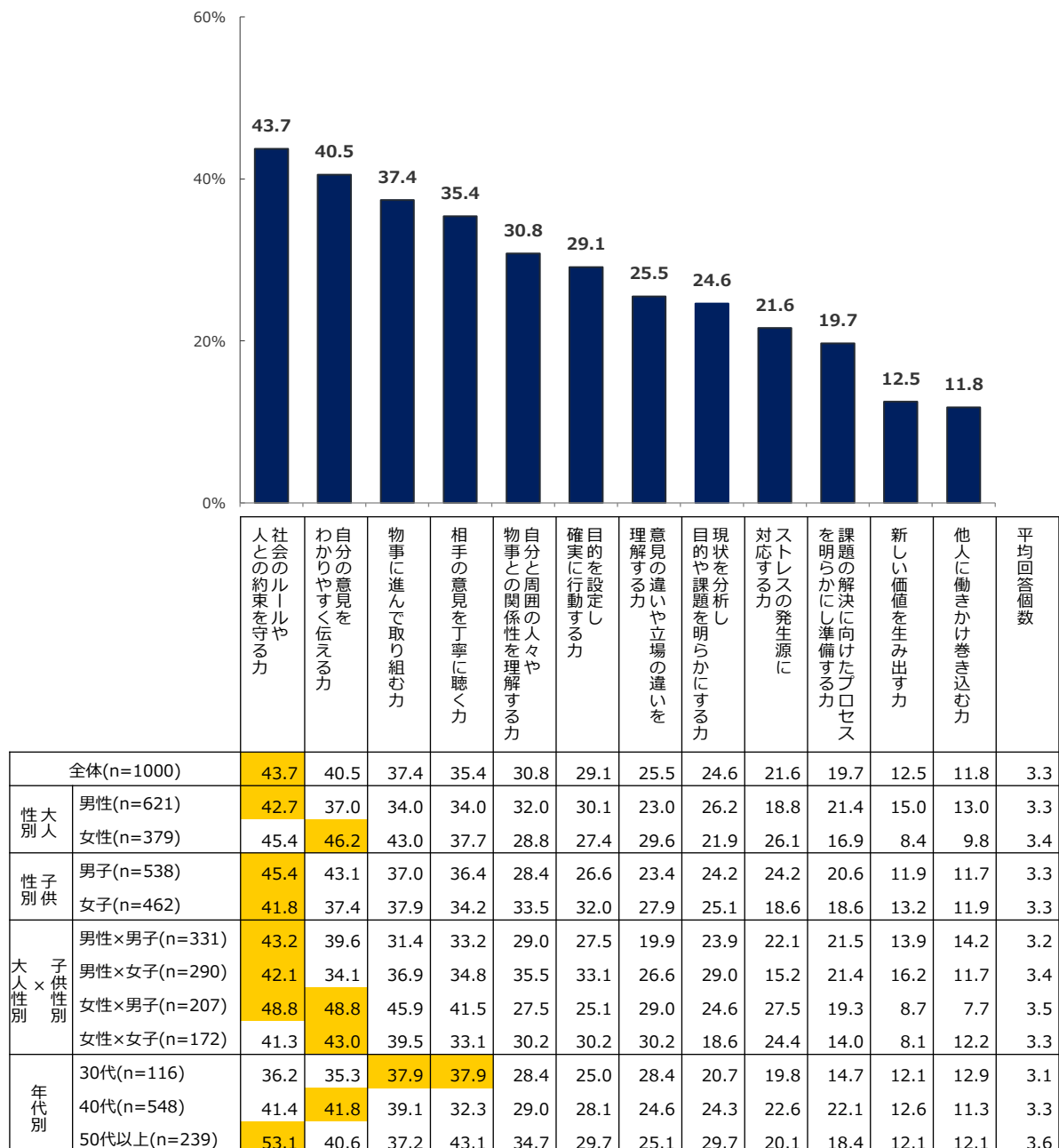
小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供が社会人になるまでに、身に付けてほしい能力は何かを聞いた（5つまで回答）。選択肢には、経済産業省が提唱している「社会人基礎力の12の能力要素」を配置した。

全体では、「社会のルールや人との約束を守る力」が最も多く43.7%、次いで「自分の意見をわかりやすく伝える力」40.5%、「物事に進んで取り組む力」37.4%、「相手の意見を丁寧に聴く力」35.4%、「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」30.8%と続いている。

これを大人の性別で見ると、男性は「社会のルールや人との約束を守る力（42.7%）」、女性は「自分の意見をわかりやすく伝える力（46.2%）」が最も多くなった。また、子供の性別で見ると、「社会のルールや人との約束を守る力」が男子、女子ともに最も多く、それぞれ45.4%、41.8%となっている。さらに、大人の性別と子供の性別を組み合わせせて見てみると、父親母親ともに「社会のルールや人との約束を守る力」を身に付けてほしいと考えているが、母親の娘に対して身に付けてほしい能力は、「自分の意見をわかりやすく伝える力」が最も多くなったのが特徴的である。

年代別で見ると、30代では、これまで性別で上位に挙がっていた2項目以外の「物事に進んで取り組む力」「相手の意見を丁寧に聴く力」が最も多くなっていた（図20）。

【図20】子供に身に付けてほしい能力



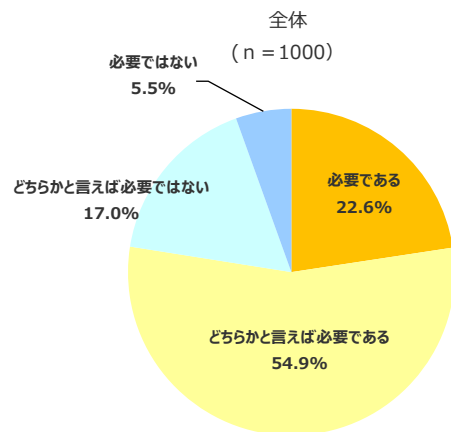
## キャリア教育の必要性

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、現時点で子供に対するキャリア教育は必要だと思うかを聞いたところ、「必要である」22.6%、「どちらかと言えば必要である」54.9%、「どちらかと言えば必要ではない」17.0%、「必要ではない」5.5%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「必要である（どちらかと言えば含む/以下同）」が77.5%、「必要ではない（どちらかと言えば含む/以下同）」が22.5%である（図21.1）。

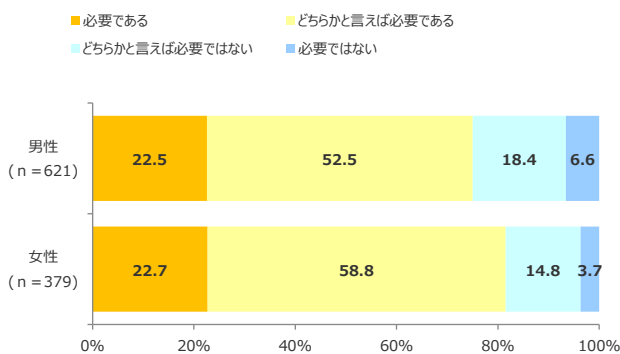
大人の性別でみると、「必要である」と回答したのは、男性で75.0%、女性で81.5%となり、女性の方が6.5ポイント高くなっていた（図21.2）。

「大人調査：仕事の充実度」にみると、「必要である」と回答したのは、仕事が「充実している」回答者で80.5%、仕事が「充実していない」回答者で69.6%となり、仕事が「充実している」回答者の方が10.9ポイント高くなっていた（図21.3）。

【図21.1】キャリア教育の必要性



【図21.2】キャリア教育の必要性：大人性別



【図21.3】キャリア教育の必要性：仕事の充実度別

